

令和2年7月発行

プレカットニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

第10回定時社員総会開催される

— 総会・理事会は書面決議で —

当協会は、当初第10回定時社員総会を令和2年6月10日（水）に東京都港区芝公園二丁目のメルパルク東京において開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染を防止すること及び政府が発動した新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言等の情勢を考慮し、定時社員総会及び理事会を書面により開催いたしました。

令和2年度第1回理事会は、議題を5月19日に理事全員に対して提案し、令和2年5月27日までに全員から書面により同意の意思表示を得るとともに監事からの異議もなく、当該提案を可決する旨の理事会があつたものとみなされました。

その後、令和2年6月1日、代表理事原田実生氏が総会の決議の目的である事項を正会員に対して提案し、当該提案につき、令和2年6月24日までに正会員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、一般社団・財団法人法第58条、第59条の規定に基づき、当該提案を可決する旨の総会があつたものとみなされました。

今回、定時社員総会は、書面決議となりましたので、特に林野庁木材産業課長眞城英一様からメッセージをいただいておりますので、以下のとおり掲載いたします。

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会第10回総会が開催されますことに心よりお慶び申し上げます。

また、貴協会の皆様には、日頃より林野行政の推進にあたり格別の御理解・御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

貴協会におかれましては、消費者から安全・安心や品質が求められる中で、CAD技術者研修等の人材育成やCADを活用した各種木造住宅建築に関するサービスの展開、プレカット部材の瑕疵保証事業、加工ミスに起因するリスク対応のための保険制度等、多様な課題に取り組まれていることについて、深く敬意を表します。

さて、現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、木材需要の動向は不透明な状況にある中、緊急経済対策等により、雇用の維持、資金繰りなどとともに、木材製品の消費拡大、滞留した原木の一時保管等への支援策を措置し、さらに関係団体等で構成する需給情報連絡協議会の開催により、需給動向や支援策の共有・周知を行っているところです。

我が国では、戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎えており、この豊かな森林資源を「伐って、使って、植える」という循環を確立し、林業・木材産業の成長産業化と森林の適切な管理の両立することが求められている中で、木材需要の創出や利用の拡大への取組が重要となっています。

昨今は、持続可能な開発目標（SDGs）やESG投資へ注目が集まる中で、経済界等においても再生可能な資源である木材への関心が高まり、木材利用に向けた取組の広がりが見られるようになっています。また、昨年は改正建築基準法が施行され、防耐火に係る基準の合理化されるなどにより木材を使いやすい環境が整備されつつあります。



林野庁眞城英一木材産業課長

令和元年 協会会員工場基礎調査結果について(第2回)

— 会員からみたプレカット加工率について —

令和元年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では93.1%となりました。

会員の皆様には、ご多忙中のところアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
~84					—
85~89		85			85
90~94	90、90、90 90、90	90、90、90	93、90、90、 90	90、90、92	1,355
95~	95、95	99、95、95、 96、95、95	97、95、95、 95、95、95 99	100、95、 95	1,726
合 計	640	930	1,034	562	3,166
(平均)	(91.4)	(93.0)	(94.0)	(93.7)	(93.1)
[前年平均]	[91.6]	[94.2]	[92.8]	[92.1]	[92.8]

◇簡単なコメント

- 1 令和元年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で93.1%と前回調査(平成30年12月末)に比べて0.3ポイント上昇しました。令和元年の在来軸組住宅の着工数は、40万戸と対前年に比べ-2.0%と減少しました。プレカット加工率は前年比+0.3%と過去最高の数値となりました。プレカット加工率は平成25年に9割の大台を超えて以降、近年はその拡大傾向は高い数値で落ち着いてきており、プレカット工場が木造住宅生産に欠くことのできないシステムとして位置付けられていると考えられます。
- 2 全国各地域のプレカット加工率についてみると、中部・近畿地域以南では、前年比微増となりましたが、全地域で90%を上回っています。今回調査に回答いただいた工場がいくぶん入れ替わり、数値に若干の変動は見られますが、90~95%の加工率で今後も推移するものと考えられます。

この調査は、主要構造部材を対象としたプレカット加工率ですが、各工場においては、主要構造部材のほか、これに付随する構造用合板、羽柄材等のプレカット加工も併せて行っており、より多様化したプレカット部材の使用が現場作業の一層の効率化と施工性の向上に寄与していると思われます。

プレカット業況調査(令和2年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ(回答率:62%)

設問	回答比率(%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	8	37	55	-47	-60
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	5	26	69	-64	-21
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答:5,900円(対前回調査-100円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	0	87	13	-13	-11
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	0	76	24	-24	-25
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易(2)変わらず(3)困難	24	71	5	+19	-3
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易(2)変わらず(3)困難	24	68	8	+16	-43
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	13	37	50	-37	-50
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び)(2)変わらず(±5%未満)(3)悪化(5%以上の減)	0	32	68	-68	-25

*DI=(1)の%-(3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

*前回調査:令和2年2月

◇簡単なコメント

5月の各設問のDIをみると、受注額については、一部の会員には好転が見られるものの会員の半数以上は悪化しており、今後においても現状以上に悪化すると予想している。収益についても、悪化が半数以上であり、今後も好転はなく7割は悪化すると予想している。加工単価については現状好転はなく、変わらずが大半であるが、3ヵ月後については、さらに下がると予想している。また、資材の入手状況は、需給環境が軟化してきている影響から現状、3ヶ月後についても容易となっている。この結果は、新型コロナウイルス感染症のため経済活動全般が自粛傾向にあり、新設住宅着工戸数をみてもかつてない需給状況にあることが主たる要因と考えられる。今後は、早期の終息が図られ需要が回復していくことを期待したい。

- 受注額のDIは-47で前回調査時(令和2年2月期)に比べて、悪い状況のなかで少し改善しているが、3ヶ月後の予測のDIは-64と先行き不透明でかなり悪化すると予想している。今後は、徐々にでも予想を上回るような業況の改善と活性化を期待したい。
- 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-13と悪化しているものの大半の会員は変わらずの状況となっている。しかしながら、平均総加工単価も5,900円と3ヵ月前と比べて-100円となっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは-24となっており、加工単価は今後も引き続き悪化すると予想している。
- 資材入手状況のDIは+19で改善してきているが需給関係によるものと思われる。3ヵ月後の予測のDIは+16と大半の会員は変化なしだが、今後ともいくらかは容易であると見通している。
- 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは-37と半数に悪化がみられている。前回調査時の3ヶ月後の収益予測が-25であった結果以上に状況は悪い。さらに、3ヶ月後の収益予測は-68と、全く好転予想はなく、引き続き多数の会員からは悪化の先行き見通しとなっている。

このような流れにあって林野庁としては、木材の大きな需要先である低層住宅分野に加え、これまであまり木材が使われてこなかった建築物等への利用を広げるべく、中高層建築物等における木材の利用拡大に向け、CLTや木質耐火部材等の新たな製品・技術の開発・普及やBIMを活用した木材利用環境の整備のほか、鉄骨造や鉄筋コンクリート造への木構造導入等による低コスト化、JAS構造材の普及、また木材の安定的・効率的な供給体制構築のための施設整備、流通の効率化に向けた川上から川下までのサプライチェーン構築等、様々な取組を進めているところです。

こうした中、木造軸組工法におけるプレカット率は9割を超えるなど、建築と木材加工の接点に位置するプレカット業の役割は大きくなっています。さらに中大規模木造建築物などの新たな需要への対応も期待される中で、貴協会におかれましては、木材利用の広がりの流れをより確実なものとするため、引き続きご理解ならびにお力添えを賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、貴協会と会員の皆様のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げましてご挨拶いたします。

都市の木造・木質化への実現に向けて

もり まち
— 令和2年度森林を活かす都市の木造化推進協議会
並びに推進議員連盟総会を開催 —

森林を活かす都市の木造化推進協議会（会長 前田直登（一社）日本林業協会会长 構成：25中央団体（当協会も構成団体）、34地方団体、14企業、54地方公共団体、1学識経験者等）の令和2年度通常総会（書面）が、6月に開催されました。



吉野議員連盟会長（6.24）

本協議会の設立趣意は、「戦後からの非木造化の中にあって、2010年には「公共建築物等における木材利用促進に関する法律」が成立し、流れが大きく変わり始めた。法の成立を契機に、耐火建築部材等の技術革新や建築基準法の改正による木造建築への規制緩和等により中高層建築物等における木材利用の可能性が大きく広がり注目され始めてきている。この国民的課題に対応して行くためには、国を挙げた木造・木質化への体制を構築することが喫緊の課題となっている。」とされ、令和元年5月13日に議連から会長の吉野正芳衆議院議員、幹事長の金子恭之衆議院議員、事務局長の

小島敏文衆議院議員、林野庁の牧元幸司長官、国土交通省の石田優住宅局長はじめ、多くの来賓を迎えて設立総会を開催しました。

それ以前の令和元年4月には、自由民主党の国会議員による「森林を活かす都市の木造化推進議員連盟」（会長 吉野正芳衆議院議員 構成：81衆議院議員、24参議院議員）が結成されました。これまで木材があまり使われてこなかった都市の木造化・木質化の取組が加速化される機運が具体的に現れつつある動きを受けて、本協議会を設立し、議連と連携・協力して都市の木造・木質化の実現に取り組んでいくこととしています。



前田協議会会長（6.24）



本郷林野庁長官（6.24）

今年度は、議連の総会が6月24日に衆議院第1議員会館で開催され、議員連盟の吉野正芳会長の挨拶のあと、本郷浩二林野庁長官、眞鍋純住宅局長からご挨拶と新年度予算等の説明がありました。その後、協議会の前田直登会長から議員連盟に対して「木材利用促進のための法律の拡充に関する要望書」が提出され、それを受けて、金子恭之幹事長からの「要望書の内容をしっかりと受け止めて、議員立法で法律の抜本的改正に取り組む」との心強い締めの挨拶で閉会しました。

今後とも、当協会としても協議会と議連の連携活動に協力し、成果を

あげることに努めて参ります。